

中予栽培漁業センターの生産状況(平成9年11月5日現在)

中予栽培漁業センター 塩田浩二

1 ヒラメ(生産計画:養殖用40mmサイズ20万尾、放流用25mmサイズ125万尾)

ヒラメの生産においては、疾病の発生防止と体色や体型異常魚の発生防止に努めています。疾病の予防策としては、飼育水の殺菌、生産棟内の消毒、入出時の手足の消毒などを実施してきました。その結果、昨年度のように生産中の種苗にVNN(ウイルス性神経壊死症)は発生しませんでした。4月中旬に生産を開始した種苗で腸管白濁症が発生し、5%程度の生残率しか得られませんでした。

施設等の消毒を徹底した上で、5月下旬に500万粒の受精卵を受け入れ再び生産を開始した結果、生産は順調に進み放流用種苗125万尾の生産目標を達成することができました。また養殖用種苗も4~9月にかけてかなり大型のサイズで22.8万尾を供給することができました。

体色の異常については、有眼側の白化にはDHAやビタミン類を強化することで、無眼側の黒化には配合飼料の選定に注意を払うことでほぼ解決しました。しかし体型の異常については、ビタミンAの過剰が疑われていますが、まだはっきりとした原因がつかめておりません。

養殖用種苗については、正常な種苗であることはもちろん大きなサイズの種苗が望まれているため、できるだけご要望にお答えしたいと考えています。平成10年度に供給する養殖用種苗については、平成9年12月から生産を開始する予定です。

2 ガザミ(生産計画:全甲幅5mmサイズ125万尾)

ガザミの生産は、これまで順調に目標を達成しており、今年度も計画どおり125万尾を供給しました。しかし、供給後の中間育成での生残率が低く、効率的な種苗放流には至ってないと考えられます。供給後の生残率には種苗の活力もかなり影響しているものと考えられることから、餌料の栄養強化による種苗活力の向上を図るとともに、稚ガミの足が脱落しないよう取り揚げや輸送の方法に注意していきたいと考えています。また日本栽培漁業協会や中予水産試験場では、中間育成の新たな技術開発も行われており、特に中間育成中の餌料にアルテミア幼生を使用することにより安定した成長と生残率が得られることがわかってきました。このような新しい技術を取り入れることにより、中間育成の生残率が向上し放流効果の増大が期待できると考えられます。

3 アカガイ(生産計画:殻長10mmサイズ20万個)

生産は6月下旬から開始しました。孵化幼生2400万個を生産に用い、約50日間屋内の水槽で飼育し、付着器(遮光幕)に付着した稚貝約22万個を沖出ししました。平成6年まではセンター前の伊予市森漁港に沖出ししていましたが、潮がわりが悪く沖出し後の生残率が低かったため、昨年は波方町小部地先に沖出した結果、大量の稚貝が生産でき12月中旬までに計画どおり供給することができました。今年も小部地先に沖出しし、現在まで順調に生育しており10月下旬には7万個を供給しました。残りの稚貝についても1月下旬までには計画どおり供給できる見込です。

4 サザエ(生産計画:殻高10mmサイズ20万個)

サザエの採卵は、通常9月頃に実施しますが、親貝の飼育水温を5月頃から24℃に上げて育成すると、7月上旬に採卵することができます。7月に採卵すると高水温のため初期の成長が早く、育成期間の短縮が期待できます。平成8年度の生産種苗は平成10年3月までに合計11万個を供給する見込です。

平成9年の採卵は10月下旬に行い、採苗にはウルペラを付けた波板を用いました。現在殻径1mm程度の稚貝を300万個育成中です。

5 アカウニ(生産計画:殻径10mmサイズ20万個)

平成8年の11月から生産を開始し、平成9年の4月から6月にかけて24万個を供給しました。さらに9年5月に生産を開始した種苗も、現在までに5.6万個を供給しました。近年アカウニの放流効果が認識されつつあり、平成9年度も需要が増加したため供給は生産計画を上回るすることができました。

平成10年度に出荷する種苗については平成9年10月下旬から生産を開始し、現在八腕期幼生約800万個を育成中です。

6 バカガイ(生産計画:殻長10mmサイズ20万個)

バカガイの産卵期は年2回春と秋にあり、ふ化後2～3週間程度の浮遊期を経て沈着稚貝になります。浮遊期の餌料は屋内のフラスコで培養したキートセラスグラシリスやイソクリシスを必要としますが、沈着期以降は主に屋外水槽で培養し濃縮したナンノクロロプシスとフェオダクチラムで十分育成できるため、目標以上の生産が可能となってきました。

平成8年10月に生産を開始し種苗は、9年4～5月には殻長10mmに成長し、約67万個を供給し生産を終了しました。今年度も昨年度に引き続き春に親貝が入手できず、11月上旬に生産を開始し現在D型幼生約1500万個を育成中です。